

外国人支援コーディネーター研修カリキュラム等策定会議（第4回）

議事要旨

日時：令和6年3月7日（木） 10:01～11:41

場所：オンライン開催

出席者：

【出入国在留管理庁】

出入国在留管理庁長官

在留管理支援部長

在留管理支援部在留支援課長

総務課研修企画室長

政策課外国人施策推進室長

【有識者】

飯田 敏 晴 駒沢女子大学人間総合学群心理学類准教授

ナカヤマ ヒロユキ 桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科准教授

小山 健 太 東京経済大学コミュニケーション学部准教授

東京経済大学グローバルDEI研究所所長

南野 奈津子 東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科教授

山崎 利 行 東京都生活文化スポーツ局都民活躍支援担当部長

【オブザーバー】

総務省自治行政局国際室参事官補佐

文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室外国人教育政策企画係長（代理出席）

厚生労働省人材開発統括官付参事官（若年者・キャリア形成支援担当）付キャリア形成支援室長

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室課長補佐（代理出席）

（敬称略）

(1) 議事「報告書（案）について」

報告書（案）、テキスト（案）、指導要領（案）に基づき、議論が行われた（※報告書（案）、テキスト（案）、指導要領（案）は非公表）。

(2) 構成員発言

- 外国人精神科医療において様々な取組がなされている中で、外国人支援コーディネーターに対する期待感が非常に高いように感じている。生活支援という範疇ではあるが、外国人にとっての精神科医療については、日本が過疎地域であったため、その意味でも外国人支援コーディネーターがつなぎの役割を果たしていくという点で非常に大きな影響があると理解している。
- 外国にルーツを持つ相談者は複雑・複合的な課題を抱えており、今回作成したテキストの内容どおりにうまくいかないこともあるかと思う。そういったときに柔軟な対応が求められるが、柔軟な対応ができるようになるためには自信が必要である。今後の外国人支援コーディネーターとなる方々への継続的なサポートや経過観察を行うなど、単に研修をするだけではなく、テキスト等の見直しにつなげていく必要があるだろう。
- 外国人本人や外国人を支援する団体にとっても誰に相談すればよいか分かるようになれば、より速やかに問題を解決していくことができるようになると思う。外国人支援コーディネーターが外国人にとってアクセスしやすい窓口になってもらうことを望んでいる。
- まず来年度においては、修了者を輩出することが非常に重要になるだろう。そのうえで、外国人を取り巻く施策は毎年アップデートされていくため、研修内容の更新が必要になるだろうし、養成研修後には実際に修了者が実践を積み重ねていくことになるので、実践をふまえて外国人支援コーディネーターとして必要な専門性を改めて抽出し、必要に応じて研修内容を見直す必要もある。在り方検討会とのすみわけは事務局で考えることかもしれないが、外国人支援コーディネーターの専門能力そのものの検討については策定会議で議論する方が適していると思われる。
- 今回の資格作りとその内容作りは歴史的にも大きな変化の一つだと認識している。どの資格でも同様かと思うが、今後は制度を運用しながらの検討・修正が求められると理解している。
- 外国人支援コーディネーターが養成されることで、その先の支援がまた重要になってくるだろう。国と都道府県と市区町村がそれぞれの役割を認識し、全体がまとまって一つとなり、支援していかなければならないと考えている。